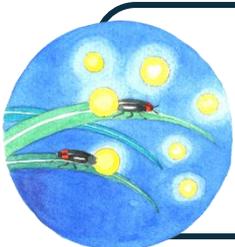


最近授業をしていて気がかりなことがいくつかあります。字が汚くて読みづらい生徒が多いこと。また、筆圧が弱く、字が薄くて、これまた読みづらいこと。前回の授業でやったことなのに、記憶が定着せず、3日後の授業ですっかり忘れてしまっていること。九九が曖昧で完璧に覚えていない生徒が増えていること。こんなことを言っている私も、字が汚くて記憶力がよくないのは子どもの頃から今まで変わっていないのですが。そんな私でも、九九は何回も何回も声に出して覚えさせられたことを覚えています。

6月の新聞に「デジタル教育のひずみ」と題して、その負の影響が報じられていました。要約すると、学力については、授業でタブレットを使う時間が長いほど学習到達度が下がっていて、読解力や数学的リテラシー、自分の頭で考える力が低下する傾向が見られること。タブレットは、物事を調べたり他人と繋がって学んだりするには有効なのですが、漢字の練習となるとタッチペンでなぞる程度で、鉛筆を握ってノートに書く経験が減り、ミミスがこのような筆圧の弱い文字しか書けない子どもが増えていること。鉛筆を握り、手指を使ってしっかり書くことは脳の発達や記憶の定着に関係すると考えられ、このままタブレット学習だけに偏ってしまうと考える力が育たなくなることが心配されています。また、健康への懸念もあり、デジタル機器に多く触れる人ほど、視力低下が顕著で、睡眠や感情抑制、うつなど、メンタルヘルスへの悪影響も危惧されており、このような現状の中で、日本だけがデジタル教育の活用に進むことへ疑問を投げかけていました。

海外のデジタル教育先進国では、既に「紙」への回復が始まっています。スウェーデンでは日本より10年早くタブレットによるデジタル教科書を使用しましたが、学力や集中力の低下が著しくなったため、デジタル教科書を「紙」に戻す法改正が行われたとのこと。私は一概にタブレット学習を否定したいのではなく、デジタルと紙、それぞれの特性を生かして上手に活用して欲しいのです。ついつい増えがちなデジタルに偏ることなく、学校で配布されている「紙」の教科書やドリルをしっかり使いこなして欲しいと願います。

## 連絡事項



**8月12日(火)・13日(水)は完全閉塾**

塾・学志館共に入ることができません。

自習道具など必要なものを持って帰っておいてくださいね。